

odai

magazine



NEW LIFE

#22

TRIMMING



おだいにまつわるエトセトラ

小台という場所の断片的なイメージから
小台をイメージするためのコーナーです

小台に行くときはバスが多いけれど、電車の駅から荒川沿いを歩いたこともある。

荒川はどこかのんびりした雰囲気があって良いと思う。中学生の時に部活の試合か何かで河川敷に来た記憶もある。川の側で運動したり散歩したり、土手に座ってぼーっとしていたり。犬の散歩を眺めたり、近くの虫に目を止めたりしたい。

竹本侑樹

オダイ。

私にとってのオダイはもちろんここ、小台。しかし、普段新宿辺りを流しているタク

シーの運チャン曰く、

お客さんに行き先はオダイと言われ、運チャンはオダイバかと思ってそちらを目指そうとしてしまったとのこと。

こちらにとっての当たり前が世の中にとっての当たり前でないことは往々にして存在する。

かわむこうのおばさん

バスを選ぶ。小さいのと大きいのから選べばどちらかに乗り込む。街から離れて川沿いを走る。目的地までは自転車でも行けるけど風が強い日は漕いでもちっとも進まなかった。バスは素晴らしい。いつだってどこか知らないところに行ける。知らない人たちと共に。小台のことはよく知らない。これからだ。

今野裕一郎

この冊子は

いろいろな人に寄せて貰った

文章や写真などいろいろなことを

並べてできています

いろいろなことは生活そのものです

身近なこともそうでないことも

頭の隅に居座っては

いつの日か不意に

何かの手引となるかもしれません

お正月

斉藤 友秋

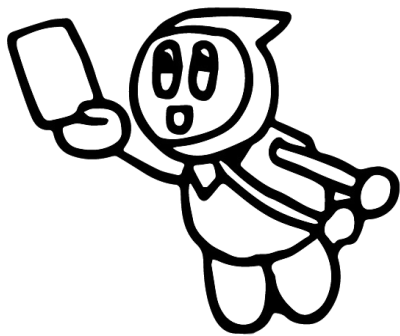
今年は例年よりお正月感があつたように思える。それは単純に元旦に閉まっているスーパーやお店が比較的多かったからだ。そうなるとおせちやお雑煮も一味違う。味覚より気分のほうが敏感だ。

正月を理由に不摂生できるのは楽しい。カップ焼きそばを買って食べ、酒をだらしなく飲み、眠たくなれば寝る。ギターを無目的に弾き、

ふざけ、風呂にも入らない。幸田文の短文で勝手祝いというのがあつたが、それを思い出した。父露伴がなにかにつけてお祝いとこじつけ、酒を飲むという話。

鏡餅は暖房による乾燥で早々にひび割れた。ちょっと首をかしげ、ものを考えているような仕草で可笑しい。小ぶりなものでみかんが乗らない。代わりに稲を添え、大袈裟な台に乗せて有り難がつている。

Always fresh life hack !!!



文・イラスト
DJ 半額

電鉄会社の株主優待券というものがあります。その一枚で、その電鉄会社の路線をどこまでも乗れるという券。株主にならなくても、金券ショップで買えます。なるべく長い距離を乗った方が得です。東武鉄道だったら、浅草から日光まで乗るなど。日光⇄浅草間の運賃は1110円なので、東武鉄道の株主優待券を900円で買って乗れば、2100円の得ですね。

東急電鉄の運用について。東急電鉄の株主優待券の相場は240円くらい。渋谷⇄横浜間は270円なので30円しか得にならない。渋谷⇄横浜間をJRに乗ったと自己暗示をかければ、JRの運賃390円との差額で250円得した、と思いつくことも可能です。

世田谷線に乗り継ぐというライフハックをお伝えします。他の東急の路線と、世田谷線は運賃体系が別。他の東急の

路線はいくら乗り継いでも同じ料金体系で加算されていきますが、世田谷線に乗ると+140円の運賃が加算される。ところが。田園都市線三軒茶屋駅を出る時に、「世田谷線に乗り継ぎます」と有人改札で優待券を見せて、自動改札に飲み込ませないまま券を保持して、世田谷線三軒茶屋駅の投入口へドロップ。世田谷線の駅から乗る時は、世田谷線の各駅で「三軒茶屋で田園都市線に乗り継ぎます」と言って、投入口にドロップせずに券を保持。世田谷線三軒茶屋駅を出て、田園都市線三軒茶屋駅で普通に自動改札へ券をツルリ、と。

下高井戸駅⇄三軒茶⇄渋谷⇄横浜だったら、本来ならば、140円+270円で410円ですが、株主優待券を使えば240円で全区間を乗れます。かなり得だ、これは。

この運用方法を知ったのは下高井戸の金券ショップでした。下高井戸から横浜に行こうとしていて、渋谷⇄横浜をちよつとでも安くあげようと、優待券を買った時の事。店主に「この券は世田谷線でも使えるし、三軒茶屋で『乗り継ぐ』って言えば、他の東急の路線でもつかえるよ」と教えてもらったのです。横浜の寿町職業安定所で開催されていた寿町フリーコンサートに行く用事だったので、同行の友人は「RPGで街の人から情報をもらったみたいなかんじですね」と言っていました。

Life is quest.

週末イラストレーター サトウテツペイの

ことだま

第四回 ご褒美

お正月は仕事に出た。365日、年中無休で営業しているからだ。実家は近いし、毎年恒例の行事もこれといって無い。二年参りは寒すぎて一度だけやってやめたし、正月だからといって出かけるどころも動けないくらい混んでいる。初売りセールも特に興味はないし。ここ数年はそんな感じだ。

三十歳になり、これからどう生きていこうか。そういう事をよく考えるようになった。むしろその事を考えすぎて他のことに手がつかなくなった。一寸先は闇、とまではいかないけど、ゴールや目標が見えていない。手探りで生きているのと変わらない感覚があった。最終的には自分が納得して決定することなので、まあ自業自得というか、誰も悪くないんだけど。

そういう部分に加えて、会社の労働環境が慢性的に悪化しているのも私にとっては負担が強かった。トップが代わって目標売上金額が設定された。注文数が増えているけれども、個人の都合などによりが人員不足した。注文に制限はしていないので増える一方。繁忙期を過ぎた後も余力がほとんどない状態だ。身体を壊して部署を異動した人もいた。

最悪、まあそれは良い。すんなり達成出来るほど簡単な目標ではないことは分かっていたし、それに向けて皆動いてもいた。何事にもトラブルはつきものだ。人員募集など対策もしていなわけではない。しかしそういう心身ともに疲弊してくると、普段平気だった事が気になり出す。免疫が落ちてきて風邪をひいたりするのと同じだ。遅刻や欠勤が常態化している従業員、それを放置する社員、仕事を増やす人々。自分でも嫌になるくらい周囲に対してイライラしてしまう。疲れている証拠だ。こういう時は、昼からスーパー銭湯に行く事になっている。

昼に入る風呂は自宅にしろ外出にしろ、特別な感じがして好きだ。外がまだ明るいのに入るお風呂。至極の時だ。アカスリやマッサージもやつ

ってもらって、再び湯に浸かる。

心は命の洗濯だなあと、風呂に入る度いつも思う。服も携帯もなく、余計なものは一切ない状態で、ぼんやり考えを巡らせる。自分がどうしたいのかが見えてくる。今の会社は好きだから、良い会社にしたいんだよねあ。

相談用のメモを書き終えた。マグカップのコーヒーもちょうどカラになった。温泉もご褒美みたいなもんだけど、追加でチョコレートケーキも頼んじゃおうかな。



『今月のちょっといい話。』

さわいかの

仕事先にある、客の忘れ物の金魚が急にデカくなり出した今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。(今エサやったのに足りなくて砂くってます。)(もう気持ち悪くって。)(15センチくらい。)(しかもキンキラ。)(金魚だから。)(オエッ。)

ということ。なにが!いい話ですか。(ねえ)。あつ、新年おめでとうございます。(などと年頭感を出してみたり。)(イヤ、何を書いたらよいのやら。)



そうそう先日友達が電話かけてきて。夏の想い出を

語りはじめたんです。その日は公園でブラブラしていたんですって。そいでなんかの弾みにコンタクト落としてしまったんですって。コンタクトレンズを砂場に。(ありがち。)(ナンパとかダンスとかしてたっぽい。)

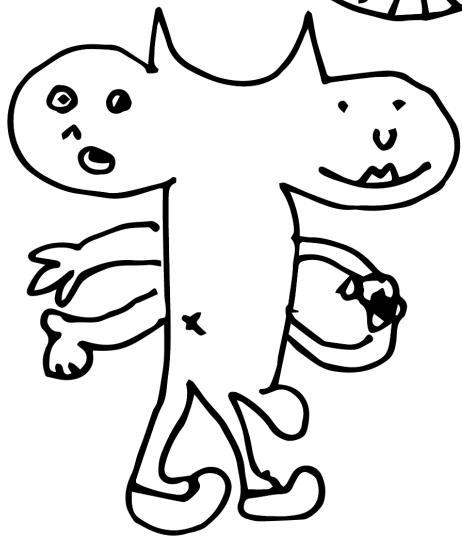
でまず、足元から風漬しに探す。

目を皿にして。でも無い。仕方ない。

ちよつと前の移動ルートからの探索。

これも無い。(砂に紛れてこつぜんと消える。)(ぜったいあるのに!)(四次元なんて信じない!)ここで突然、リーンリーン:電話です。タクラマカン砂漠にあなたはいます。もしもし?神様だけど。太平洋にコンタクトあるけど。どうする?(ねえ、まず行けませんよ。)(普通は。)(不条理ですもん。)(きついなあ。)(そう思いません?)

探してしおしお、あきらめてトボトボの地平を見るや砂場の彼方から!、真っ黒いうねり。行列!レンズ!担いで!やって来た!



(ですって。)(もちろん蟻!)(蟻さん!)
ワオーツ!(貢ぎ物?ご機嫌いかが?)
しばしボーゼン&コーコツ。友我にかえる。
レンズ頂く友あたたかな
直帰。嗚呼そんなお話でした。信じられる?
本当の話なんだってバ!

ドキュ部のNINE準備号

#2

映画鑑賞
レポート

太陽の下、土の上

岩波ホールで十月に開催されたジョージア（グルジア）映画祭で観たドキュメンタリー映画「陽の当たる町」（ラティ・オネリ監督）。そのチアトゥラという町は、かつては世界のマンガンの半数を産出し、ソ連時代には工業の中心都市として、あらゆる文化施設も建設され繁栄したが、ソ連崩壊、マンガンの衰退とともにゴーストタウン化が進んでいく。

世界初だった公共ロープウェイも、今や古びた棺桶のような佇まいで鉱夫たちを運ぶ。雪の夜に浮かび上がるネオンの十字架。壊されてゆく建造物。町そのものが墓場のようなでありながら、そこに張り詰めているのは死ではなかった。

坑道で摂る貧しい食事。鉱山事故で亡くなった者たちを弔う献杯。グラウンドから町の中へ、淡々と走り続ける二人のやせた少女。「通信省」と書かれた建物のなかで行われる、何かを諦めたような気だるい宴会。窓の中でぐるぐると回る小さなダンサーたち。それぞ

れのかたちで、生が発散され続けている。

墓場はいつまでも、生きている者のためにあるようだ。

〆書いた人〰 ルーシー



『陽の当たる町』ラティ・オネリ 2017 ジョージア

ジョージア映画祭 コーカサスの風
2018/10/13-26 東京・岩波ホール

○ジョージア・・・旧ソビエト連邦構成国。2008年にロシアと武力衝突した旧グルジア政府の要請を受け、日本では2015年に国名呼称がロシア語由来の「グルジア」から英語由来の「ジョージア」に変更された。

○コーカサス三国・・・アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア。黒海とカスピ海の間位置する。

青田買い。まだ動き出さぬ『黄金』という映画について

伊参スタジオ映画祭（群馬県中之条町）では、全国から映画シナリオを募集し映画化させる「シナリオ大賞」という取り組みを2003年から行っている。つい先日（1/25）、第18回となる映画祭で中編の部大賞に輝いたのは、笹谷遼平による「黄金」というシナリオ。財産も戸籍も持たず山での生活が続けた「サンカ」と呼ばれる実在した人々を題材としたフィクションだ。笹谷は自身のドキュメンタリー『馬ありて』が来年グループ現代配給で上映されるドキュメンタリー監督であり、シナリオ大賞にも3年に渡り「サンカ」を題材にしたシナリオを送ってきた。昨年落選したシナリオ「お還り」

は、サンカの娘として生まれ行方不明になった高校生の少女が、言語も話せない動物のような状況で発見され、物語の最後ではその親友が彼女の尊厳を守るために冬山へ連れ出し、その死を見届けるという強烈な物語だった。個人的には昨年が一番だったが、審査員からは「差別的である。映画化は難しい。」と厳しい意見

も出された。彼は諦めず、史実とフィクションとの融合点を模索し続け「黄金」を書き上げ、今年大賞を受賞した。まだ誰も知らない映画ではあるが、2019年秋の上映が楽しみでならない。

へ書いた人▽ 岡安さん
伊参スタジオ映画祭実行委員長



『黄金』（シナリオ）笹谷遼平 2018 日本

伊参スタジオ映画祭シナリオ大賞2018
2018/1/25 群馬県中之条町・伊参スタジオ

○サンカ・・・少数集団で山間を漂泊して暮した民。居住地は東北地方と北海道を除く日本全域にわたった。独特の習俗を伝えるほか、仲間だけに通用する隠語を多用したことが知られている。第二次大戦後、急速に姿を消した。柳田国男や三角寛による研究が知られる。「山窩」とも書く。（平凡社 百科事典マイペディア他より）

ドキュメンタリー映画部

主にドキュメンタリー映画を見て考え対話する会。2017年山形国際ドキュメンタリー映画祭のZINEを作成した。

この「ドキュ部のZINE準備号」は、今回のZINEのエスキース、また部員の発表の場として作成している。メール：documentarybukatsu@gmail.com

わたしの味蕾

小川 沙希

歳をとるとわたしの味蕾が死んで、小さい頃食べられなかったピーマンの苦味も人参の青臭さも、なんだか美味しいって感じるようになるの。

敏感に反応出来ていた舌は、苦味、辛味、酸味をどんどん感じられなくなる？

こうやって、このまま味蕾が死んで、死んで死んで、ツルツルの舌になったら、わたしはどんな物を食べても、何も、感じなくなるのかな。

ツルツルの舌で、冷たさ、とか暖かさ、とかあの子の感觸、は分かるのかな。

わたしのツルツルの舌で感じてみれたらなあ。

あの子もあの子も、好きになれる、きっと。

甥っ子とわたし

杉浦俊介

クリスマスに姉夫婦の家に行き、久しぶりに甥っ子に会ってきた。

姉家の犬が死んだ時以来かもしれない。もうちよつと会っている気はするが思い出せないからそういうことにしておこう。

今年のクリスマスは、と言っても天皇誕生日だったが、甥っ子が増えた。まだ若い。

賑やかなご飯を食べ終わると

「しゅんすけ、ゾイドつくろう。」

と最近下の名前で呼ばれるようになったわけだけど、誘われたからプレゼントで彼が貰ったゾイドと一緒に組み立てた。自分が子供の頃にゾイドを組み立てていた記憶からすると、かなり簡易になっている。パーツはすでに切り出されていて、説明書で追う工程も、キャップを留める箇所も少ない気がする。しかし、これが彼にとっての現実であり楽しみ

なのだから、大人が過去の話を持ち出してディテールに拘っても仕方がない。説明書の通りにパーツを並べる。誘ってきたからには自分で組み立てて欲しかったが、彼はレゴにしても案外こういう作業が得意でなく、大体少し悩んだ後でひとにやらせる。そしてこのひとにやらせる工程が出ると組み立てるといふ行爲にはうんざりするのか、別のことをし始める。今回は来る前にパパと組み立てていた方のゾイドで遊びだすといった具合だ。組み立てに挑戦はするのだけど、なかなかすぐ挫折してしまうから、叔父としてはもう少し頑張つて欲しいと思う。

妹が生まれたばかりのときに、赤ちゃん返りしたことがあって、そんなもの知らなかったから凄く心配してしまったけど、お兄ちゃんになったことだし、頑張ってくれ。



温度 午後 午前 時間 (毎日時こくをきめて調へましよう)	おきたじこく 	
	日曜日 天気 	1月 6日 ねたじこく

ワリスマスにサンタサン
 がウーモというようせいを
 もらいました。とてもう
 れしがたけど目がこわくて
 でもかわいいです。わたし
 はサンタサンに感しゃして
 います。ロロちゃんと言わぬ
 をつけました。ウーモと言わぬのは
 目の色で気持ちを表します。
 ※(目の色がむらさきの時はミルクを
 ぬぐって下さい)

絵日記

鈴木 レゼ はるひ

おぎぬまXの4コマバトル道場

道場破り

～オダマガ支店・第四戦～

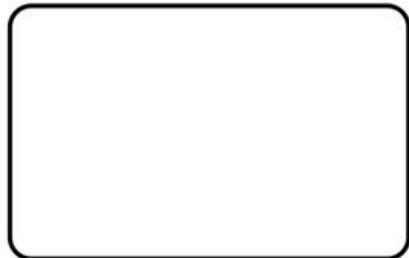
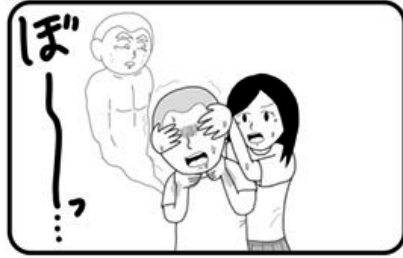
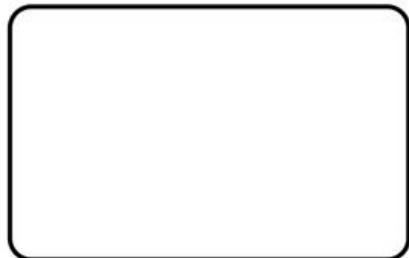
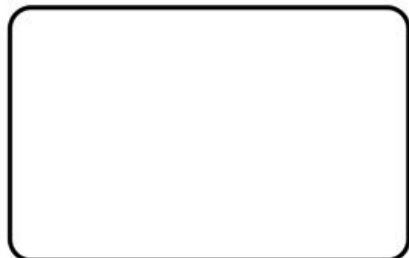
師範代

お題『だ～れだ?』

おぎぬまX

4コマバトル道場戦績・ 勝 敗 4コマバトル道場戦績・ 1勝 1敗

初参戦



V
S

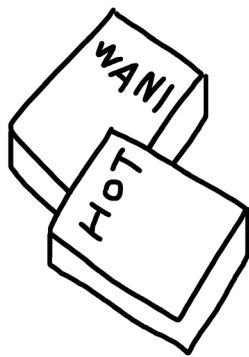
押忍!! 4コマバトル道場の師範代・おぎぬまXッス!!

『だ～れだ?』がテーマの4コマを描いたら、このページを写真に撮って
Twitterの『@oginuma_x』にDMを送ろッス!! 挑戦者求む!!

23歳、実家暮らし、現代美術作家志望、大学5年生、今年度での卒業の目処はない、バイトはしていない、お小遣いは貰っていない、制作の材料費や雑費の為に4ヶ月に一度、有償ボランティアの治験をして食いつないでいる（休業期間として4ヶ月が経たないと新しい案件を受けられない）。それでもどうしても素寒貧になってしまつてどうにかしてお金を作るしかない時は、売るに売るに売って洗練されてきた本や服や道具たちから、無理矢理に読まない使わないと理由をつけて小銭に替えていた。そんな時、エアコン業者が屋根裏に入るといので屋根裏に放り込んであるものを降ろすことになり、中高生の頃集めていたフィギュアが沢山出てきた。月一で



1/8を買って部屋の棚から溢れて上手に飾れなくなつて、お金に余裕がでてきたらショーケースを買って飾ってやるぞと取つておいたお姫様たちだ。エアコン業者は複数回来るらしいので一々出して収まってなどしてられない。でかい段ボールに入れたまま修理が終わるまではリビングに置いておくことになった。とっても邪魔だがまあしょうがない、未来のご新居の為にまあお姫様たちにはいけず石の如く鎮座しておいてもらおう。普段から物を片付けたり家具の配置をより住み良いうように工夫してみたり、整理整頓するのが好きなのでこの状況は不服だった。「ミニマリズム・本当に大切なもの」というドキュメンタリー映画を夕飯のお供に観た。『富や名声を手に入れても本当の幸せにはなれない』。ジム・キャリーの言葉が紹介される。そういうジム・キャリーは、『人生で手に入れたものはいつか朽ちてバラバラになってしまう。最後に残るのは、あなたの心の中にあるものだ』とも言っていたな。映画を観ている途中で強力なお片づけ衝動に駆られて大人し



く観て居られず、深夜日付が変わる頃に万物大移動を始めてしまった。ベッドの下からガレージまで要らぬものはいねがあと要らぬもの小脇に奔走した。目に留まったものは全て要るか要らぬかの審議にかけられ、埃なんかも目につけば舐め殺すように決り去った。視覚的セラピー効果やなにか良性の機能を果たすもの以外は一切合切捨てることにした。そんなこんなでリビングのいけず石の処遇はというと、ベッドの下から恐る恐る抱え出したMANIとかMINIとかホットミルクとかの名を冠す聖書たちと共に駿河屋さんをお願いすることにした。数多青春の輝きを駿河に流し、僕はなにを残せるだろうか。

初めて小台に行ったのは今から数年前、美味

しいコーヒーが飲めるBRÜCKEに行った時のこと。小台の夜に訪れる暗闇の中、オレンジの暖かい灯りで通りを照らすこのお店が私は好きだ。ここはコーヒーだけでなくチーズケーキもすごくおいしい。

この日の目的は、私たちが吉祥寺で1週間だけオープンするコーヒー屋「grind house coffee」で出すコーヒーの味を選ぶこと。タイとブルンジから届いたコーヒー豆。その二つの国の豆のいろんなブレンドを試す。テーブルの上は小ささまざまなサイズのカップで溢れかえっていた。透明な容器の中には微妙に濃さの違う茶色い液体が入っている。その様子はまるで科学の実験後のようだった。肅々と出来上がったコーヒーをテーブルへと運んでくれる店主の杉浦さんは寡黙な博士に見える。出来上がったコーヒーを一杯一杯吟味して試飲しながら、私たちは色んな言葉でコーヒーの味を表現してみた。そして真剣に話し合った結果、1…1のブレンドで出す方向で話はまとまったのだ。

帰り道。コーヒーの味をじっくり吟味し過ぎた私たちは小台から北千住駅へ向かう最終

「夜の帰り道」

橋本 和加子

バスを乗り過ごしてしまい、じゃあ歩こうということになった。

荒川の土手を東に向かって歩く夜のこの道が私はとても好きだ。左手にはおっきくて真っ黒な荒川。水面の闇の上には首都高の灯りが反射して揺れている。首都高の交通量はこの日も多く、血管の中を走る血液みたいに車が途切れなく流れている。目の前に広がる暗闇の先にある首都高のピンク色した側面にはクリスマスみたいな赤と緑の灯りがチカチカ灯っている。右手には隅田川と工場群。鉄く

ずが積まれてあったり、おっきなマシンが屋外用の強い灯りに白々と照らされてたりする。時々このあたりは変な匂いがする。川と川に挟まれたこの場所に人は住まない。私は土手からみたこの場所の景色が好きだ。それはこの辺りが生まれ育った土地に似ているからかもしれない。私の実家は大阪の東の方に位置する門真市というところにある。松下電器の本社があるからその下請けの工場が街の至る所にある。同級生のお父さんはだいたい

がそれらの工場で働いていて、お母さんは工場関係の内職をしている家庭が多かった。工場が続く道は街灯が少なくて、暗闇の先には建設途中の行き止まりの道が長い間そこに放置されたままになっている。ぼーっと歩いていると行き止まりに突き当たってしまい、そこで立ち尽くしてしまうことになりそう。この小台にも「これなんの道だろ」って道が、歩いているとふと現れたりする。そこには雑草が生い茂り、あの門真の行き止まりの道のように何年もそのまま放置されてるよううだ。

夜の暗闇にすっかり慣れてきた頃、私たちは目的地の北千住に着いた。程よい疲労感の中、横断歩道の先にBRÜCKEみたいにオレンジの光で通りを照らすタイ焼き屋さんが見えた。少しお腹もすいていた私たちはこの長い帰り道の締めくくりに、熱々のあんこの入ったたい焼きを頬張りつつ家路についたのだ。

こんな風に何にも追われずのんびりと好きな道を好きな速度で歩く時間は自由で幸せな時間はない。次はもう少し暖かくなった季節に小台に行ってみよう。

I Wanna Be A Macho

岡村 陽一

爆弾低気圧がやってくる。

爆弾低気圧

いつごろからか耳にするようになったこの言葉。

それはそれは恐ろしい低気圧なんだろう。

その爆弾低気圧とやらのおかげで今日の仕事は定時前に早上がりだ。

厚い雲、きつともものすごいスピードで動いている雲。

目が空けられないほどの暴風、殴り掛かってくる雨。

傘が舞い、電線が唸る。

そんな激しい嵐の中を、

ヴィレッジピープルのマッチョマンを聞きながら帰る自分がいる。

男らしいな……と、ふと思った。

どんな困難にも負けない意思が確かにそこにはあった。

爆弾こわい、だなんて言ってもらえない。

俺は嵐を呼ぶ男。

頭の中で無数のマッチョマンが、マッチョマンが踊っている。

HEY! HEY! HEY HEY HEY!

橋の渡りかた

寒い日には、何か温かいものを身につけたり、どこか温かい場所に行ったり、運動をしてみましょ。きつと体が温まります。

予定を立てるときは、カレンダーを使ってみましょう。マスで把握することで、前後の状況もわかりやすくなり、目標も同時に立てやすくなります。季節感も織り交ぜることが容易になるかもしれませんね。いくつか併用してダブルブッキングにならぬよう気をつけましょ。

なぞなぞを沢山解いてみましょ。思わぬ気付きがあるかもしれません。馬鹿にできません。

植物や昆虫を観察してみましょ。私たち人間との造形の違いだったり、生き方の違いを見たらきつと感動するのではないでしよか。そうしているうちに考えるということがよくわからなくなりそうです。

なんだか気分が乗らないときは、思い切つて休んでみましょ。一日くらい休んだつて、誰も文句を言つてきやしません。ほんとのところ、いくら休んだつて構いやしません。

ふりをしてみましょ。知らないふり、誰かのふり、楽器を弾くふり。ふりを極めればなんだか何でもできそうで夢がひろがりますね。でも、辛くないふりは続けてしまふときつと後で後悔することになります。どんなふりも後悔しそうですね。

なんだか気分がイマイチなときには、友人と話してみましょ。友人なんていないと思つても大丈夫。話したいと思つた人はきつとあなたにとって友人です。

住んでいたり、働いていたりする町の道を制覇してみましょ。

大きい道も小さい道も歩いてみると、知らなかった場所ほもちろん、思いも寄らない近道だつて発見できます。

道案内がうまくなつて方向音痴の人は方向上手になるかもしれません。敵を撒くのもお茶の子さいさい。

1から10までかぞえるのを1セットとして、10セットをまた1セットとして、というのを永遠に繰り返してかぞえられるところまでかぞえてみましょ。普通に数をかぞえるのと同じとうことに気がくはずです。10より大きい数を発明した人は天才ですね。

パソコンやスマートフォンなどの通信機器の使い方を制限してみましょ。現代の私たちは漢字ですら忘れたりしています、人間の脳はすごいもので、昔なら電話番号をいくつも覚えていたなんてことが普通でした。大事な連絡は手紙でしてみるとか、別に大事じゃない連絡も手紙でしてみるとか、手紙つていいですね。

新しい年が始まりましたが、平成が終わろうとしています。まだ元号はわかりませんが、新しい天皇誕生日は2月23日になります。なんとも覚えやすいですね。さて、2月と言えば、と言ってもまだわからないですが、御徒町にてブリュッケ2号店となるSHINZのオープン予定です。一応2月11日の予定です。基本はコーヒースタンドですが、座席もいくつか作って、ネット環境も用意できたらいいなあと思います。ただ、そのへんは少しあとになるかもです。出張コーヒーでお世話になっている王子の二本やさんも王子から要町に移転となり春に本格オープンとなったり、今年は色々新しいことがある年なのかも知れません。要町に移っても出張コーヒーに行けるよう頑張りたいと思います。

SHINZにむけてカヌレを焼こうかなと思ってます。年末に練習しようとしていたのですが、なかなか思ったように時間をつくることができなかったのと、やばいなあという思いがこみ上げます。しかし、ただ家賃を発生させるというのはちよつとなので出せるものだけでしばらく勝負するかもしれません。営業時間は8時〜19時の予定で、店主は午前中やって小台にもどるというスタイルだと思っています。

小台店では、店内専用サイトをrasberry piで立ててみました。ワールドワイドウェブは良くない特性も持ち合わせるので、こういうサイトスペシフィックサイトがどの店にもあったらいいのになと思って立ててみたのです。店主ブログに興味のある人がいるかわかりませんが、書くときはそちらに書こうと思います。

イベント情報などはHPでご確認ください。

odaibruce.org

「こんな顔」 in 小台

玉坂めぐる

ストリートファイトが会ったみたいです。「ウイナー！」レフリーが勝者宣言をしてました。

見方によっては、脚立が立てかけてあるみたいにも見えますね。



寄稿はどなたでもできます。

何か載せてみたいことがありましたら、文章でも絵でも写真でも構いません。

件名を「オダマガ寄稿」とし、お名前・肩書・Twitter アカウントを添えて

下記のメールアドレス宛にお送りください。

hello@odaibrucke.org

あなたの生活のひとかけらをお待ちしています。

小台マガジン 22

2019 年 1 月

編集 ブリュッケ

印刷 プリントパック



岡村 陽一	(otonarisound)	
岡安さん	(ドキュメンタリー映画部)	@okayasu_k
小川 沙希	(パフォーマー)	@owawawawawa
おぎぬま X	(マンガ家)	@oginuma_x
かわむこうのおばさん(会社員)		
栗原 論	(店主のパイセン)	
今野 裕一郎	(演出家・映画監督)	@KonnoYuichiro
斉藤 友秋	(音楽家)	@saitosaitama
サトウテツペイ	(週末イラストレーター)	@bone_tep
さわいかの	(会社員)	@kasukedoll
鈴木 レゼ はるひ	(小学生)	
竹本 侑樹	(イラストレーター)	@space_color
玉坂 めぐる	(「顔に見えるもの」の収集家)	@tamasakameguru
DJ 半額	(ひみつ)	
橋本 和加子	(俳優)	@thebusstrio
原田 溪杜	(大学5年生)	
ルーシー	(ドキュメンタリー映画部)	@zugako
杉浦 俊介	(店主)	@odaibrucke



BRÜCKE

odaibrücke.org